## CONTENTS

事業紹介	2
常務のつぶやき	3
特集① かけがえのない ボランティアの皆さまへ	4
特集② コロナ禍での新たな取り組み ~取り戻しつつある日常生活~	6
特集③ 楽友会『クリーン活動』	8
ランタンフェスティバル参加	10
商店街キャラバン @ ハロウィン 2021 参加	11
栄養士'sキッチン	12



表紙イラスト 白楽荘介護職員 高橋俊一郎

## 常務のつぶやき 日々雑感

最近「2040年問題」という話をよく 耳にします。2040年は日本の高齢者人口(65歳以上)がピークになるとされる 年で、いわゆる団塊ジュニア世代が高齢者 となります。つい何年か前までは「2025年問題」が指摘され、団塊の世代が全員75歳以上になり、医療・介護の社会保障費が急増することが懸念されてきました。現在、2021年、間もなく2022年になりますから、2025年は「もう」目と鼻の先。今からそこへの対応を準備していても間に合わない、次は2040年を課題として捉えようということなのでしょうか。

さて、高齢者人口が増加すれば、介護等 の支援を必要とする高齢者の数も増えてい くことが推測されます。当然ですがその担 い手の数も今より必要です。ところが、少 子高齢化が進む現状では、その担い手を確 保することがままなりません。現在、日本 の生産年齢人口(15歳から64歳)は約 7.449万人。それが2040年には約 5,978万人となり、20年弱の間に1, 470万人余りも減少します。現在の東京 都人口が約1.400万人ですから、それと 同程度の数が減るとすればかなり衝撃的で す。そのような状況で果たして介護や福祉、 また医療等の社会保障制度を支える担い手 を十分に確保できるのか非常に危惧される ところです。

2001年に21世紀となり20年。「もう」と感じるか「まだ」と感じるかは人ぞれぞれでしょう。ただ、それと同じだけ時間が経過すると私たちは2040年を迎えています。「もう」と感じる前に何かしらの対策を講じなければなりません。

常務理事 鶴岡 哲也

